

電気通信大学 平成20年度シラバス

授業科目名	認知言語論		
英文授業科目名	Cognitive Linguistics		
開講年度	2008年度	開講年次	3年次
開講学期	前学期	開講コース・課程	昼間コース
授業の方法	講義	単位数	2
科目区分	総合文化科目-上級科目-テーマ別セミナー		
開講学科・専攻	情報通信工学科 情報工学科 電子工学科 量子・物質工学科 知能機械工学科 システム工学科 人間コミュニケーション学科		
担当教官名	坂本 真樹		
居室	西6-511		

公開E-Mail	授業関連Webページ
sakamoto@hc.uec.ac.jp	

【主題および達成目標】
言葉のような一見煩雑で混沌とした現象について理解するには、何らかの理論的枠組みが必要です。この授業では、認知関連分野の研究成果を積極的に取り込む学際的な言語理論である認知言語学の枠組みを通してさまざまな言語現象について考えます。

【前もって履修しておくべき科目】
なし

【前もって履修しておくことが望ましい科目】
なし

【教科書等】
教科書：谷口一美著「学びのエクササイズ 認知言語学」ひつじ書房 参考書：西村義樹編「認知言語学I：事象構造」東京大学出版会 山梨正明編「認知言語学論考2」ひつじ書房 楠見孝編「メタファー研究の最前線」ひつじ書房

【授業内容とその進め方】

- 第1回：ガイダンス（認知言語学の基本的考え方）
- 第2回：言語理論の歴史における認知言語学の位置付け
- 第3回：視点の投影と推移
- 第4回：言語知識形成(1)
- 第5回：言語知識形成(2)
- 第6回：意味のネットワーク
- 第7回：構文と意味(1)
- 第8回：構文と意味(2)
- 第9回：メタファー(1)
- 第10回：メタファー(2)
- 第11回：メトニミー
- 第12回：共感覚メタファー（1）
- 第13回：共感覚メタファー（2）
- 第14回：オノマトペ
- 第15回：まとめ

【成績評価方法及び評価基準(最低達成基準を含む)】

- 評価方法：レポートおよび授業参加度を、次のように総合評価する。
成績評価 = (授業参加度評価点 × 30%) + (レポートの評価点 × 70%)
評価基準：
授業内容を理解している C
適切かつ十分な量の言語データを収集できている B
授業内容に基づく理論上の仮説を実証する実験などを行っている A
実験結果について授業内容の適切な理解に基づきかつ独創的な考察を行っている S

【オフィスアワー：授業相談】

適宜相談に応じるが、電子メールや電話などで事前にアポイントを取ること。

【学生へのメッセージ】

- 日本語や英語を中心とする言語現象をみてゆくことによって、2つのことを学んでほしいと思います。
- 1) 毎日当然のように使っているが実はよくわかっていない言語と人間の言語能力について理解を深めること
 - 2) 直接観察することが難しい人間のもつさまざまな認知能力を、それが反映される言語現象を分析することによって観察すること

電気通信大学 平成20年度シラバス

無意識に言葉を話しているときに人間が駆使している能力のすごさに気付いてほしいと思います。

【その他】